

委託事業実施内容報告書 平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：公益財団法人東広島市教育文化振興事業団

1. 事業の概要

事業名称	みんなで知ろう東広島―体験活動による日本語学習・日本語サポートの方法―
事業の目的	1. 外国人市民が東広島市の特徴や状況を知ることを通して、東広島市の市民としての自覚を持つ。また、知り得たことを日本語で伝える。 2. 本事業に参加した外国人市民が東広島市について知り得たことを自身の知人友人にインターネットなどを通して知らせることにより、より多くの外国人に東広島市について知らせる。 3. 受け入れ市民は、外国人市民の活動を支援することにより、自身も東広島市について知識を深め、またそれを通して外国人とのコミュニケーションの方法について知る。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	1. 東広島市は外国人人口が対総人口比で2.85%(2015年11月)全国でも外国人の比率が多い市(在留外国人総数上位100自治体 第95位、法務省2015年6月統計に依る)である。平成4年度より公費により専門家が指導する日本語教室を立ち上げ、すでに20年以上も継続して行っている。またその間、交流型の教室、1対1の日本語サポートなど受け入れ市民ボランティアによる日本語支援も行い、基本的な日本語教育事業は充実してきている。しかしながら、外国人市民が東広島市の市民としての意識を持つまでには至っておらず、地域の活動などへの参加率も低い。 2. 東広島市は総面積が東京23区に匹敵しているにもかかわらず、市内中心部および、南部(黒瀬・安芸津)の3か所に日本語教室があり、最近外国人市民が増加している八本松地区、高屋地区には教室がない。そのため、日本語教室に参加したくても参加できない外国人市民が増えている。 3. 外国人市民が2.8%を超え、特に市中心部では外国人の姿を日常的に目にするにもかかわらず、受け入れ市民からの積極的な働きかけがなく、同じ地域の住民という意識が低い。 4. 当事業団登録の国際交流ボランティアは、減少していないにもかかわらず、外国人市民の増加により相対的に足りない状況となっており、市民へのボランティアへの参加呼びかけが急務となっている。
事業内容の概要	本事業は、上述の2を除く課題を解決の糸口にするために行う。 本事業は、外国人市民(日本語学習者、以後学習者)と受け入れ市民(日本語ボランティア、以後ボランティア)が、東広島市について知る活動を共にすることにより、同じ市民として協働するという意識を醸成するために行う。 活動の内容は、伝統産業(酒造り)を始め、ゴミ処理システム、危機管理(災害に備える、救命救急の知識)、交通、学校教育、伝統行事(盆踊り・新年交流会)とする。これらの活動では日本語でのやり取りが主となるため、学習者には日本語を学習し使用する機会を提供し、ボランティアには、外国人市民とのコミュニケーションの方法を学ぶ機会を提供する。各テーマごとに東広島市の関係部署、および酒類総合研究所、観光協会、盆踊り保存会などに講師を依頼し、それぞれのテーマについて知る機会を得る。各講師にはやさしい日本語を使用している講義を依頼するが、講義の前には、学習者の理解を補うために、事前、事後にやさしい日本語などを使って内容について学習を行い、ボランティアがそれをサポートする。また、学習者の使用言語を理解する人に通訳など補助を依頼する。互いに同じテーマで学びあうことを通じて、学習者とボランティアの間に、協働で作業するという意識を醸成する。さらに学習者は活動を通して知り得たことを、インターネットなどを通して、自国の友人、知人に伝える。また、本事業開催中にシンポジウムを設けて学習者が体験したことを発表する機会を作る。またこのシンポジウムは、東広島に在住する市民に呼びかけ、外国人の活動や考えを聞く機会とする。 ボランティアの学習者とのコミュニケーションの能力を養成するための活動も併せて行い、これまで外国人市民との活動の経験がない市民にも参加を呼び掛ける。 すべての取り組みが滞りなく、また有機的に遂行できるよう、中核メンバーは事業期間中に10回程度の内容検討会議を設け、進捗状況を把握し、課題があればそれを解決するための対策を講ずることとする。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月 (10か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	吉本由美	広島国際学院大学
2	ダックワース・ネイサン	BJ Club English School
3	細谷直美	東広島市企画課
4	木原賀彦	(公財)東広島市教育文化振興事業団
5	間瀬尹久	(公財)東広島市教育文化振興事業団



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年6月2日(木)10:00～12:00	2時間	東広島市民文化センター	吉本・ダックワース・細谷 木原・間瀬	1. 研修の概要説明 ・文化庁に提出した事業計画に沿って説明 2. 質疑および意見交換
2	平成28年11月1日(火)10:00～12:00	2時間	東広島市民文化センター	吉本・ダックワース・細谷 木原・間瀬	1. 各取り組みの進捗状況 2. シンポジウムについて 気付き、アンケート結果について 3. 今後の多文化共生推進のための活動内容等について意見交換
3	平成29年3月14日(火)10:00～12:00	2時間	東広島市民文化センター	吉本・ダックワース・細谷 木原・間瀬	1. 平成28年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業まとめ 中核メンバー振り返りなどをもとに今年度の取り組みについて報告。 2. 課題に対する運営委員による意見交換 (1) 学習者の減少傾向について (2) 専門家の話が難しすぎることにについて (3) ボランティアの裾野をひろげることについて 3. 今後の東広島市の多文化共生を目指した取り組みについて意見交換

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	市企画課：本事業を行うにあたって、市各課との連絡などを支援する。また、市内の外国人市民の状況について情報を提供する。 市危機管理課：防災について学ぶ際に講師を派遣する。また、見学の際に便宜を図る。 市廃棄物処理課：ごみ処理・分別について学ぶ際に講師を派遣する。ゴミ処理施設の見学に便宜を図る。 市消防署：火災や救急の緊急連絡の方法を学ぶ際に講師を派遣する。消防署見学の際に便宜を図る。 市警察署：交通ルール、特に自転車の乗り方について学ぶ際に講師を派遣する。 実際に路上での交通ルールの指導を行う際に便宜を図る。 市教育委員会：学校制度や日本の教育について学ぶ際に講師を派遣する。学校見学、児童生徒との交流の際には便宜を図る。 酒類総合研究所：日本酒の作り方について学ぶ際に講師を派遣する。 観光協会：酒蔵通りや西国道など、西条の歴史を学習する際に講師を派遣する。酒蔵通り見学の際にガイドを派遣する。 西条盆踊り保存会：西条に伝わる盆踊りの指導をする。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	全体コーディネーターとしての間瀬は本事業の企画立案を行い、取組1, 2, 3のすべての活動が滞りなく行われるよう、中核メンバーと連絡を密にして本事業を遂行する。 全体の会計処理など事務的な内容については井山が担当する。事務的な観点から間瀬に助言を与える。 1. 運営委員会は間瀬が事業目的や実施体制について説明し、運営委員が助言を与える。 2. 取組1：大角が指導者(教室コーディネーター)として、教室運営に当たる。学習者、ボランティアのマッチングや、教材などを間瀬と検討決定し、内容が学習者に理解できているかを把握する。支障があれば間瀬と解決方法を相談し学習者の理解を向上させるように計らう。 3. 取組2：奥村は、日本人ボランティアのための講習会において、担当講師より事前に資料などを受け取り、内容を把握する。ボランティアは学習者とともに講師の話を聞くことになるため、学習者にどのようにやさしい日本語で内容を伝えるか、ボランティアに助言する。また、日本語教室の際には、ボランティアの疑問に答えたり、助言を与えたりして、学習者の理解を促す活動に支障のないように配慮する。 4. 取組3：シンポジウムでは、大角が学習者の発表内容について助言、指導を行う。学習者が発表内容を考え、まとめる際にはボランティアがサポートをするが、そのサポートが適切にされるよう、奥村がボランティアに助言、指導を行う。また、シンポジウム当日は、中核メンバーが会場準備、受付、進行など必要な作業を行い、発表内容について、学習者にフィードバックする。 5. すべての取り組みが滞りなく、また有機的に遂行できるよう、中核メンバーは事業期間中に10回程度の内容検討会議を設け、進捗状況を把握し、課題があればそれを解決するための対策を講ずることとする。
----------	--

3. 各取組の報告

取組1

取組の名称	東広島ってどんな町？みんなで知ろう東広島！（日本語学習者編）								
取組の目標	1. 外国人市民が東広島市の特徴や状況を知ることを通して、東広島市の市民としての自覚を持つ。また、知り得たことを日本語で伝える。 2. 本事業に参加した外国人市民が東広島市について知り得たことを自身の知人友人にインターネットなどを通して知らせることにより、より多くの外国人に東広島市について知らせる。 3. 活動を通して日本語力を向上させる。								
取組の内容	1. テーマに沿って、市企画課をはじめ担当者から市の現在の状況や東広島市の特徴などについて説明を受ける。 テーマは次の通り。 (1)ごみ処理(ごみの分別方法、ごみ処理場の見学) (2)観光(酒蔵通り・日本酒の作り方) (3)交通(交通事故を防ぐ：自転車の乗り方) (4)危機管理(自然災害に備える) (5)消防・救急(救急救命の方法・地震対策) (6)学校教育(学校に行こう) (7)文化体験(盆踊り・新年交流会・餅つき) 2. 1.の内容について日本人ボランティアとともに理解できたことを日本語で話したり書いたりすることで、理解できたことを明確にする。日本語ボランティアはやさしい日本語でサポートすることで、外国人参加者の理解を助ける。 3. テーマに沿った場所や関係機関を見学し、様々なことを体験することで東広島市に対する理解を深める。 4. 体験してわかったこと、感想、意見などをまとめる。 5. 4.のまとめを日本語で発表する。 6. 日本語能力が高い学習者は、日本語が難しい学習者に母語での通訳、翻訳を行うことでサポートをすることにより、自分自身の日本語力の向上を目指す。 7. 80%以上の出席者に修了証を授与するものとする。 8. 本事業の始めと最後および各テーマが終わるごとに全10回の内容検討会議を開催する。参加メンバーは、本事業中核メンバー（講師2名、コーディネーター、事業管理者）4名の参加とする。（取組2と同様）								
取組による体制整備	1. 市企画課、廃棄物対策課、商業観光課、危機管理課、東広島市消防署、東広島市警察署、市教育委員会、東広島市観光協会、酒類総合研究所、西条盆踊り保存会と連携して開催することにより、各組織に対して外国人市民の存在を認知させる。 2. 交流型日本語教室の進めかたのモデルとする。将来的には市内の各教室で、このような取り組みを行うための試みとする。								
取組による日本語能力の向上	活動では、おしゃべりや見学を楽しむだけでなく、その日の活動内容を振り返ることで、言語的、文化的に得たことを意識化することに配慮した。さらに、得たことを言語化し発表することを義務付けた。これにより、自分の考えをまとめ、書くことに慣れ、大勢の人の前で発話にとまどうことなく、自分の考えを伝えることができるようになった。このような活動を行うことで、4技能(聞く、読む、話す、書く)がバランスよく向上した。								
参加対象者	東広島市に居住または就労、学習する外国人					参加者数 (内 外国人数)		69 (69)	
広報及び募集方法	1. 多言語(やさしい日本語、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語)チラシを作成し、次の場所や機関に配布広報する。 ①現在行われている日本語教室 ②市役所、広島大学、など公的機関 2. 市多言語広報に記載する。 3. 当事業団、交流型教室「にほんごわいわい」のFacebookサイトに記載する。								
開催時間数	総時間 86 時間(空白地域 時間)								
主な連携・協働先	市企画課、廃棄物対策課、商業観光課、危機管理課、東広島市消防署、東広島市警察署、市教育委員会、東広島市観光協会、酒類総合研究所、西条盆踊り保存会								
開催場所	市民文化センター研修室及び廃棄物処理場、消防署、酒蔵通りなど見学場所								
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
	25	5	4	2	2	1	0	1	
	アフガニスタン(1)、アメリカ(10)、イラン(2)、インド(1)、エジプト(1)、カナダ(1)、グアテマラ(1)、シリア(1)、スリランカ(1)、スウェーデン(1)、台湾(3)、フランス(1)、マカオ(1)、メキシコ(1)、ロシア(2)								

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年5月13日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	13	ゴミについて知ろう	取り組みテーマに関する語彙リストに基づき、日本人ボランティアと共にテーマについての知識を得る。また会話力をつける。	大角 千恵	通訳：片山正規、高慧珠
2	平成28年5月20日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	5	ゴミについて知ろう	担当者の話を聞く。ボランティアとペア、グループになり、サポートを受けながら、日本人の自然な日本語に触れる。	大角 千恵	通訳：片山、高事務補助：舒筱菫
3	平成28年5月27日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	12	ゴミについて知ろう	前回の話に関して、知識と理解を深める。	大角 千恵	事務補助：舒
4	平成28年6月3日（金） 13:30-16:30	3	東広島市民文化センター	8	ゴミについて知ろう	ゴミ処理施設の見学。これまでの学習内容を活かし、実際の施設見学、体験を通し学習をさらに進める。	大角 千恵	通訳：片山、大竹麗芳、高
5	平成28年6月10日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	7	ゴミについて知ろう	まとめ。ボランティアと共に振り返り、作文を書く。	大角 千恵	
6	平成28年6月17日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	7	消防について知ろう	取り組みテーマに関する語彙リストに基づき、日本人ボランティアと共にテーマについての知識を得る。また会話力をつける。	大角 千恵	通訳：片山、奥村、劉澄華
7	平成28年6月24日（金）		東広島市民文化センター		消防について知ろう	開催予定であったが、大雨警報発令のため、中止。		
8	平成28年7月1日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	9	消防について知ろう	担当者の話を聞く。ボランティアとペア、グループになり、サポートを受けながら、日本人の自然な日本語に触れる。	大角 千恵	通訳：片山、大竹、劉澄華 事務補助：舒

9	平成28年7月8日（金） 9:30-12:30	3	東広島市民文化センター	7	消防について知ろう	東広島消防署の施設見学。これまでの学習内容を活かし、実際の施設見学、体験を通し学習をさらに進める。	大角 千恵	通訳：片山、大竹、劉澄華 事務補助：舒
10	平成28年7月15日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	9	消防について知ろう	まとめ。ボランティアと共に振り返り、作文を書く。	大角 千恵	
11	平成28年7月21日（木） 19:00-21:00	2	東広島市民文化センター	9	盆踊りに行こう	盆踊りに踊る曲目全5曲のうち第1曲、第2曲を練習	盆踊り保存会	事務補助：舒
12	平成28年7月23日（土） 19:00-21:00	2	東広島市民文化センター	11	盆踊りに行こう	盆踊りに踊る曲目全5曲のうち第3曲を練習。その後第1、2曲も復習	盆踊り保存会	事務補助：李驊
13	平成28年7月28日（木） 19:00-21:00	2	東広島市民文化センター	5	盆踊りに行こう	盆踊りに踊る曲目全5曲のうち第4曲を練習。その後これまでに習った3曲を復習。	盆踊り保存会	事務補助：舒
14	平成28年7月30日（土） 19:00-21:00	2	東広島市民文化センター	3	盆踊りに行こう	盆踊りに踊る曲目全5曲のうち第4曲を練習	盆踊り保存会	事務補助：李
15	平成28年8月4日（木） 19:00-21:00	2	東広島市民文化センター	5	盆踊りに行こう	盆踊りに踊る曲目第5曲を練習。その後総ざらい。	盆踊り保存会	事務補助：劉澄華
16	平成28年8月20日（土） 18:00-21:00	3	東広島市民文化センター	18	盆踊りに行こう	御建神社盆踊りに参加。やぐらの下で、浴衣を着た参加者が踊った。	盆踊り保存会	事務補助：劉
17	平成28年9月2日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	5	交通ルールを知ろう	取り組みテーマに関する語彙リストに基づき、日本人ボランティアと共にテーマについての知識を得る。また会話力をつける。	大角 千恵	通訳：片山、大竹、高石舞夜
18	平成28年9月9日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	6	交通ルールを知ろう	担当者の話を聞く。ボランティアとペア、グループになり、サポートを受けながら、日本人の自然な日本語に触れる。	大角 千恵	通訳：片山、大竹、高石 事務補助：舒
19	平成28年9月16日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	5	交通ルールを知ろう	前回の話に関して、知識と理解を深める。	大角 千恵	
20	平成28年9月23日（金） 9:30-12:30	3	東広島市民文化センター	5	交通ルールを知ろう	自転車に乗り、交通ルールを学ぶ。これまでの学習内容を活かし、実際の体験を通し学習をさらに進める。	大角 千恵	通訳：片山、高石、シータル
21	平成28年9月30日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	7	交通ルールを知ろう	まとめ。ボランティアと共に振り返り、作文を書く。	大角 千恵	
23	平成28年10月14日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	8	酒造りについて知ろう	取り組みテーマに関する語彙リストに基づき、日本人ボランティアと共にテーマについての知識を得る。また会話力をつける。	大角 千恵	通訳：片山、大竹、舒
24	平成28年10月21日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	8	酒造りについて知ろう	担当者の話を聞く。ボランティアとペア、グループになり、サポートを受けながら、日本人の自然な日本語に触れる。	大角 千恵	通訳：片山、大竹、舒 事務補助：高石
25	平成28年10月28日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	11	酒造りについて知ろう	前回の話に関して、知識と理解を深める。	大角 千恵	事務補助：高石
26	平成28年11月4日（金） 9:30-12:30	3	東広島市民文化センター	10	酒造りについて知ろう	酒蔵の見学。これまでの学習内容を活かし、実際の施設見学、体験を通し学習をさらに進める。	大角 千恵	通訳：片山、高石、舒
27	平成28年11月11日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	7	酒造りについてしろう	まとめ。ボランティアと共に振り返り、作文を書く。	大角 千恵	
28	平成28年11月18日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	6	危機管理	取り組みテーマに関する語彙リストに基づき、日本人ボランティアと共にテーマについての知識を得る。また会話力をつける。	大角 千恵	通訳：奥村、高石、舒
29	平成28年11月25日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	6	危機管理	担当者の話を聞く。ボランティアとペア、グループになり、サポートを受けながら、日本人の自然な日本語に触れる。	大角 千恵	通訳：片山、大竹、舒 事務補助：高石
30	平成28年12月2日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	6	危機管理	前回の話に関して、知識と理解を深める。	大角 千恵	事務補助：舒
31	平成28年12月9日（金） 9:30-12:30	3	東広島市民文化センター	11	危機管理	東広島市民文化センター周辺を歩いて回り、危険を探し、その対策を考える。これまでの学習内容を活かし、実際の体験を通し学習をさらに進める。	大角 千恵	通訳：片山、奥村、舒
32	平成28年12月16日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	8	危機管理	まとめ。ボランティアと共に振り返り、作文を書く。	大角 千恵	
33	平成29年1月6日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	5	新年交流会	日本の正月に関する語彙リストに基づき、日本人ボランティアと共にテーマについての知識を得る。また会話力をつける。	大角 千恵	通訳：奥村、高

34	平成29年1月13日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	6	新年交流会	前回の学習を加味し、さらに知識と理解を深める。	大角 千恵	通訳：奥村
35	平成29年1月15日（日） 13:00-16:00	3	東広島市民文化センター	19	新年交流会	新年交流会に参加し、茶道、書道、餅つき、着物の試着などに参加。	間瀬尹久	
36	平成29年1月20日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	9	新年交流会	日本の正月の遊びを体験し、学習をさらに進める。	大角 千恵	
37	平成29年1月27日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	5	学校に行こう	取り組みテーマに関する語彙リストに基づき、日本人ボランティアと共にテーマについての知識を得る。また会話力をつける。	大角 千恵	通訳：奥村、片山、大竹
38	平成29年2月3日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	8	学校に行こう	担当者の話を聞く。ボランティアとペア、グループになり、サポートを受けながら、日本人の自然な日本語に触れる。	大角 千恵	通訳：片山、大竹
39	平成29年2月10日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	6	学校に行こう	前回の話に関して、知識と理解を深める。	大角 千恵	
40	平成29年2月17日（金） 9:30-12:30	3	東広島市民文化センター	9	学校に行こう	学校見学。これまでの学習内容を活かし、実際の施設見学、体験を通し学習をさらに進める。日本人児童と交流をする。	大角 千恵	通訳：奥村、片山、大竹
41	平成29年2月24日（金） 9:30-11:30	2	東広島市民文化センター	5	学校に行こう	まとめ。ボランティアと共に振り返り、作文を書く。	大角 千恵	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第9回 28年7月8日】

テーマ：「消防署に行こう」

目標：火事・地震対策を知る、消防署の仕組み、業務内容などについて知る。

内容：東広島消防署へ行き、施設を見学した。車両、館内（指令室、消防服、消防署の位置を地図で確認、煙体験、消火体験、地震体験、非常持ち出し袋のサンプル）を見学、職員の仕事や役割、訓練の様子、ドクターヘリなどの話、DVD（地震について）消防署員から説明をうけた。起震機で震度7の地震を体験したり、煙に見立てた白い気体が充満したテントに入り、火災を体験したりした。

参加者の感想（振り返りシートより）：勉強になった、どんな訓練をしているのか分かった、煙の経験がよかった、たのしかった、

成果：

- ・学習者は見たり触ったりして、興味を引かれたようで、積極的に質問ができた。教室での座学では出なかった質問が多く出た。例：地震の時は携帯電話はかかるか、着替えは何か分くらいかかるか、など
- ・救急・消防車両の中や温度感知器を見る、消防服を触る、ヘルメットをかぶる、煙の充満したテント内を歩く、モニターに映った火を消す、震度7の揺れを体験した。これらを通じて、目標が達成された。
- ・消防署員の話から、119番に通報する、最新情報をラジオで聞く、エレベーターに閉じ込められた時に話す、など緊急時には日本語が分かる必要があるということが実感できた。
- ・知りたい、と感じたことについて、日本語で質問することができた。



○取組事例②

【第34回 29年1月20日】

テーマ：「新年交流会」

目標：日本の新年の文化を体験する

内容：「新年交流会」の4回目。1、2回目では新年に関する語彙や表現を学んだ後、3回目として東広島市民文化センターで行われた「新年交流会」に参加した。そこでは書道、華道、茶道、餅つき、着物の着付け、和楽器演奏体験など、日本の文化を体験した。最後に、4回目の活動として、ボランティアに日本の遊びを教えてもらいながら体験した。コマ回し、はねつき、すごろく、かるた、将棋などを体験した後、まとめの作文を書いて発表をして、参加者でシェアした。

学習者の感想：みんなと初めて会ったのですが、すぐに一緒にかるたを遊び始め、楽しかった。友達もできてすごく嬉しかった。ここにきて嬉しかった。本当にありがとう。漢字が特に難しかった。ことわざの意味が難しかった。日本のことわざについてよく学びよかった。

成果：

- ・机上の学習ではなく、遊びを通して自分の言いたいことを言うという場になった。話しやすい雰囲気だった。
- ・体験したことを作文にまとめることによって、ある程度まとまった量を書けるようになった。書きながら、ボランティアに手伝ってもらうので、話す練習にもなった。また、それを発表することで、自分の意見を発信したり、他人の意見を聞いたりする機会となった。



(2) 目標の達成状況・成果

検証方法: 毎クラスでの発表、振り返りシート、一年を振り返っての聞き取りアンケートから検証する。

目標1: ある程度達成できた。地域の施設を見学することによって、自分たちの住んでいる町の問題を意識することができた。例えば、ゴミ処理場に多くのゴミがあるのを見て、ゴミを分別する必要性を実感できた。日本に長期滞在する者として、日本人同様に取り組むべきだという認識を新たにできたという意味で、「東広島市の市民としての自覚」を持つきっかけとなった。毎回の授業の最後に、この授業で知り得たこと、学んだこと、印象に残ったことなどを、クラス内で自分の言葉で発表する場を設けた。初めはボランティアの助けを借りなければ難しい学習者もいたが、徐々に上手にできるようになった。

目標2: 達成できたとはいいがたい。SNSで、自国の人への発信をしている学習者を確認したのは少数であった。発信していた参加者は少ないのではないかと。この目標について学習者に確認する作業を明確には行わなかったことが悔やまれる。もしかすると自国の友人などに何らかの形で伝えていたかもしれない。

目標3: おおむね達成できた。クラスに参加するようになり、日本語が上手になった、という複数の学習者の声が聞かれた。久しぶりに会ったボランティアから「日本語が上手になった」と言われた、という声もあった。またシンポジウムの発表者を選ぶ際にも学習者たちはあまり躊躇なく引き受ける様子が見られ、多くの人の前での日本語での発表に躊躇しなくなったことが窺えた。このような状況から、彼ら自身が自分の日本語にある程度の自信を付けたのではないかと推測される。

成果:

- ・ボランティアとともに自分の住んでいる地域のことを知ることができた。
- ・2回開催したシンポジウムにおいて、学んだことや感じたことを、教室参加者以外にも発信することができた。
- ・学習者からは、他の外国の人と知り合うことができ、自分の知らない文化、言葉、習慣などを知ることができて、有意義だったという声が聞かれた。
- ・毎回の発表やシンポジウムを通して、日本語が上達した学習者もいた。また、自分の意思を、自信を持って表わすことができるようになった。
- ・本取組に不可欠であったボランティアとの交流も楽しみ、日本の習慣や文化についての知識も多く得るきっかけとなり、新しい発見があった。
- ・来日して間もない学習者が参加することによって、心細い気持ちが和らいだとのことであった。また、学習者やボランティア同士で交流を深め、クラスは知り合いを作る場、学習者の居場所としての機能も果たしていた。

(3) 今後の改善点について

1. 学習者への働きかけ

①学習者が発信する機会を作る

どの程度、FacebookなどのSNSを利用して発信できていたかどうか、実際は分からないが、何人かは、教室活動を母語でも発信していた。クラスのFacebookがあるので、そこに投稿してもらえるよう、もっと働きかけるべきだった。

2. 学習内容

①テーマに自由度を持たせる

毎回、テーマが決まっていたので、これまでの教室参加者には、自由度が足りず、不満だったかもしれない。日本人ボランティアにもテーマに関してどうクラスで扱うかなど考えてもらえれば、ボランティアの参加意識も向上したと思う(「新年交流会」など後半では、ボランティアの主体性を促すよう取り組んだ)。

②同一テーマで行う時間数を減らす

一つのテーマで5回(11時間)というのが、長すぎた感がある。メリハリをつけるために、テーマを増やし、それを扱う各時間数を減らす。

③内容の選定や配慮

行政、施設の担当者の話を聞く回では、現場の話が聞ける貴重な機会であったが、外国人に話すことに慣れていない担当者もいて、スピードが速く語彙も難しく、学習者には難解であった。内容理解の助けをするボランティアや通訳がいたものの、追いつかないこともあった。日本人でも理解しにくい内容だったり、担当者が早口だったり、日本語のレベルとしてはかなりハードルが高かった。専門性の高すぎる内容の時もあったので、事前の十分な打ち合わせが必要である。

④体験できる内容をさらに取り入れる

学習者が、見るだけではなく体験することもあれば、より学習がすすんだと思われる。消防署の見学では、起震機に乗ったり、煙の中を歩く体験をしたりと、体で感じる内容だったので、学習者の感想もポジティブで、知りたいという気持ちから質問も多く出た。

3. 開講日時(金曜日の午前)の再考

①妥当性

設定が妥当かどうか、という点を、参加者人数の観点から、検討を必要とする。平日の昼間しか参加できないという学習者を対象に開講したが、一年を通して参加できるという学習者は少数であった。連携機関との兼ね合いがあり、同じような活動を行おうとすれば、平日の設定が望ましいが、週末などの学習者が多く集まりやすい時間帯を考慮すべきである。

＜取組2＞										
取組2	取組の名称			東広島ってどんな町？みんなで知ろう東広島！（日本語ボランティア編）						
	取組の目標			1. 受け入れ市民は、外国人市民の活動を支援することにより、外国人とのコミュニケーションの方法について知る。 2. 外国人市民とともに東広島市について知識を深めるとともに、それを共有することにより、地域住民同士としての意識を醸成する。						
	取組の内容			次の内容について各3時間乃至5時間 計44時間の日本語ボランティア養成講座(下記4.(3)実践活動は取組1との合同とする)を行う。()の数字は時間数を表す。ただし、できる限り取組1の内容すべてで日本語サポートをすることを推奨する。 1.市内外国人の状況(3) 2.日本語ボランティアとはどんなことをするのか(3) 3.やさしい日本語を使ったサポートの方法(3) 4.東広島市の状況 (1)講義:テーマについて学習者とともに1.5時間～2時間の講義を聞く。講義のテーマは次の通り。それぞれのテーマごとに講義2時間、演習(実践準備)1時間、実践活動2時間を行う。 ①ごみ処理(ごみの分別方法。ごみ処理施設の見学)(5) ②観光(酒蔵通り・日本酒の作り方)(5) ③交通(交通事故を防ぐ:自転車の乗り方)(5) ④危機管理(自然災害に備える)(5) ⑤消防・救急(救急救命の方法・地震対策)(5) ⑥学校教育(学校に行こう)(5) * ⑦文化体験(盆踊り・新年交流会・餅つき)(3)→これについては講義は行わない。実践活動(3時間)のみとする (2)実践準備:講義内容をどのように学習者にやさしい日本語で説明するか、1時間～1.5時間程度、指導者とともに考える。 (3)実践活動(取組1に合流):(2)で考察したことをもとに学習者の理解を助ける活動を行う。さらに希望者は、見学体験、学習者発表の資料作りのサポート(全46時間)も行うことができる。 5.講習会では80%以上の受講者に修了証を付与するものとする。						
	取組による体制整備			1. 市企画課をはじめ、廃棄物対策課、商業観光課、危機管理課、東広島市消防署、東広島市警察署、市教育委員会、東広島市観光協会、西条盆踊り保存会と連携し、活動に取り組む。 2. これら関係部署の担当者が指導、助言する際には「やさしい日本語」について説明し、できる限り「やさしい日本語」で話すよう依頼する。以て公的機関の担当者らに外国人とのコミュニケーションについて考察する機会を提供する。						
	取組による日本語能力の向上			1. 取組1に参加する日本語学習者の日本語能力の向上(取組1、「取組による日本語習得」参照)のために、サポートを行う。 2. 学習者をサポートするにあたり、「やさしい日本語」を使つてのコミュニケーションの方法を知る。						
	参加対象者			東広島市に在住、就労、学ぶ日本語を母語とする人、乃至は日本語能力上級者。また実践相手としての日本語学習者。		参加者数 (内 外国人数)		68 (15)		
	広報及び募集方法			1. チラシを作成し、 ①現在国際交流ボランティアに登録しているボランティア希望者に送付する。 ②市役所、広島大学、など公的機関にチラシを掲示する。 2. 市多言語広報に記載する。 3. 当事業団、交流型教室「にほんごわいわい」のFacebookサイトに記載する。						
	開催時間数			総時間19時間(空白地域0時間)						
	主な連携・協働先			取組1と同じ						
	開催場所			東広島市民文化センター研修室						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			8	1						1
			アメリカ(5)、日本(53)							
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	平成28年5月20日(金)11:30～12:30	1	東広島市民文化センター	11	ボランティア講習会1 学習者がわかるように伝える	専門家の話の内容を学習者にわかりやすく伝えるポイント、コツを考えた(情報の選択、実物の提示、単語の選択など)		奥村玲子	なし	
2	平成28年5月27日(金)9:30～11:30	2	東広島市民文化センター	11	理解を深める	ボランティアへのサポート(学習者がトピックについて理解を深めるために)		奥村玲子	舒彼茜	
3	平成28年7月1日(金)11:30～12:30	1	東広島市民文化センター	6	ボランティア講習会2 ひとこと発表	ひとこと個人発表(活動の最後)の注意点を学ぶ(スピード、トピック選択、意識など)		奥村玲子	なし	
4	平成28年9月9日(金)11:30～12:30	1	東広島市民文化センター	6	ボランティア講習会3 やさしい日本語で話すには	専門家の話し方をふりかえり、やさしい日本語にするためのポイントを確認した		奥村玲子	なし	
5	平成28年9月16日(金)9:30～11:30	2	東広島市民文化センター	5	理解を深める	ボランティアへのサポート(学習者がトピック着いての理解を深めるために)		奥村玲子	なし	
6	平成28年10月21日(金)11:30～12:30	1	東広島市民文化センター	6	ボランティア講習会4 やさしい日本語になおしてみよう	やさしい日本語と普通の日本語を比較し、普通の日本語をやさしい日本語に直す実践活動を行った		奥村玲子	なし	
7	平成28年10月28日(金)9:30～11:30	2	東広島市民文化センター	7	理解を深める	ボランティアへのサポート(学習者がトピックについて理解を深めるために)		奥村玲子	高石舞夜	
8	平成28年11月25日(金)11:30～12:30	1	東広島市民文化センター	6	ボランティア講習会5 「聴く」を体験する	ペアをつくりお互いの話を聞く。あいづち、リピート、質問など、聞き方に制約を設け違いを実感する		奥村玲子	なし	
9	平成28年12月2日(金)9:30～11:30	2	東広島市民文化センター	5	理解を深める	ボランティアへのサポート(学習者がトピックについての理解を深めるために)		奥村玲子	舒彼茜	
10	平成29年2月3日(金)11:30～12:30	1	東広島市民文化センター	7	ボランティア講習会6 やさしい日本語と普通の日本語の違い	講師がやさしい日本語と普通の日本語を学習者相手に話すのを聞く。違いを見つけ注意点を話し合う		奥村玲子	なし	
11	平成29年2月10日(金)9:30～11:30	2	東広島市民文化センター	5	理解を深める	ボランティアへのサポート(学習者トピックについての理解を深めるために)		奥村玲子	なし	

12	平成29年3月3日(金)9:30～12:30	3	東広島市市民文化センター	32	ボランティア講習会7 日本語サポートを楽しむ	東広島市の外国人の現状(講義)、やさしい日本語と普通の日本語の比較(実演)、外国人との会話(実戦)	奥村玲子、大角千恵	舒彼茜
----	------------------------	---	--------------	----	---------------------------	---	-----------	-----

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第8回（ボランティア講習会としては第5回）平成28年11月25日】

1.テーマ:「聴く」を体験する

2.目標:学習者が安心して話せるように聴くスキルについて学ぶ

3.実技(ペアワーク)

①無言:相手を見つめて黙って聞く

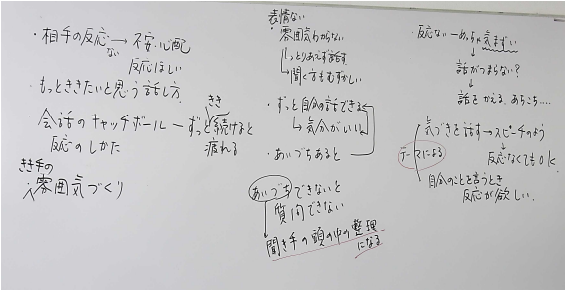
②相槌、オウム返し:相手のいうことを受け止めたという姿勢を示しながら聞く

4.振り返り(参加者のコメント:写真参照)

- ・聞き方の違いが話し手、聞き手両方に影響を与えることがわかった
- ・聞き手の反応がないと話し手は心配になる
- ・聞き手の反応がないと話し手はいい気持ちになり独走することもある
- ・相槌を打たないと、聞き手、話し手の双方が頭の中を整理できない
- ・テーマによって、反応の必要レベルが変わって来る(自分のことを話すときは、特に反応がほしい)
- ・参加した学習者(アメリカ)のコメント:言いよどんだときは待つて欲しい。自分に替わって先に言われてしまうと複雑な心境(ちょっと待つてくれれば言えたのに)になる

過去4回の講習会では、やさしい日本語、特に話し方に焦点を当ててきた。その中で「話す」とセットになる「聴く」スキルの必要性を感じたので、ここで取り上げた。危機管理クール(5回)であったが、ペアワークで話す内容は個々のボランティアに一任した。

ほとんどの参加者が「聴く」練習は初めての体験だった。「聞き手の反応がないと心配になる」というのが一般的な意見だったが、「反応がないといい気持ちになって独走する」というボランティアもいた。自分の感じ方(行動)を自分が意外に感じるという貴重な発見があった。ボランティアと学習者がお互いに気持ちよく会話をするために、聴くスキルが重要なことが本講習で理解できたというコメントが多かった。

○取組事例②

【第12回(ボランティア講習会としては第7回)平成29年3月3日】

1.テーマ:日本語サポートを楽しむ

2.目標:本年度のボランティア講習会の総まとめと位置づけ、ボランティアがどのように日本語学習者のサポートをすればいいのかを考え、実践する。

3.参加者:日本人ボランティア32人、外国人学習者9人

* 取組1に参加したボランティアだけでなく、東広島市教育文化振興事業団が行う他の日本語活動に携わるボランティアの参加も多かった。ボランティア同士の交流の場ともなり、情報交換が活発に行われた。

3.プログラム①東広島市の外国人の現状説明②ボランティア同士の情報交換③やさしい日本語と普通の日本語(実演を見て比較しポイントを把握する)④実践(外国人学習者との会話を見て気がついたことをグループで話し合い代表者が発表⑤振り返り

①多くの参加者がアンケートに「はじめて知った事実が多かった」と書いていた。ボランティア活動の基礎となる知識が共有できた。

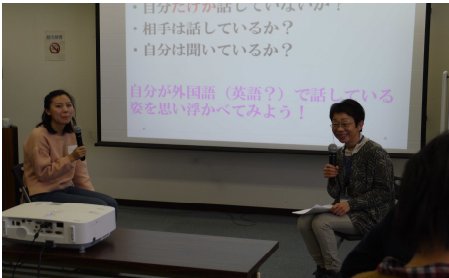
②当団体が行う日本語活動に参加するボランティアが多数集まったことで、情報交換が活発に行われた。

③講師が学習者を相手に実演を行った。日本語の違いが対話相手(中国人学習者)のはっきりした反応の違いを引き出した。多くの参加者がアンケートで最も印象に残った活動にあげていた。

④③で得た知見を踏まえて、実際に外国人学習者と話す実践活動を行った。ボランティアは話すスピード、語彙、トピック選択などに注意を払って会話を行ったので、学習者との相互理解が進んだ。

⑤講座全体の振り返りとして、ボランティアは振り返りシート(アンケート)を記入した。外国人学習者は全員コメントを述べた。「話し方が早すぎると聞く気がなくなる」など率直な意見が多く、ボランティアへのインパクトは大きかった。

「日本語サポートを楽しむ」と題して、学習者と「楽しく相互理解できる会話」をするにはどうしたらいいかを参加者全員で考えた。特にやさしい日本語と普通の日本語を比較する実演は、ボランティアだけでなく学習者にもインパクトがあった。学習者から率直なコメントが出され、ボランティアは多くの気づきを得ることができた。




(2) 目標の達成状況・成果

検証方法: 振り返りシート、一年を振り返っての聞き取りアンケートから検証する。

目標1: 達成できた考える

ボランティア講習会に多くの学習者の参加を得たことが、目標1の達成に大きく寄与したと考える。なぜなら学習者が参加することによって、学習者の視点、本音を直接聞くことができた。「こちらが話すまで、ほんの少し待って欲しい」「早すぎると聞く気がしなくなる」「まちがっていたら修正して欲しい」「やさしい日本語だけでなく正式な日本語もおしえてほしい」など、率直な意見が多く出され、ボランティアは「自分が何をしたらよいか」を具体的に認識することができた。加えてやさしい日本語について5回取り上げたうち2回、やさしい日本語と普通の日本語の違いを講師の実演によって提示した。それに対してボランティアから、学習者との会話の注意点として、スピード、語彙、敬語、文を短く、相手をよく観察するなど、的確な指摘が多く出され、やさしい日本語や外国人と日本語会話について、ボランティアの理解が進んだことが裏付けられた。

目標2: 概ね達成できた考える

各テーマにおいて、特に見学活動がボランティアには好評だった。理由として挙げたのは①個人として行く機会がほとんどない②『敢えて行きたいとは思わないが実は必要(な知識)』(特にゴミ処理場)の二つである。長く東広島市に在住していても「初めて行った(小学校以外)」という人も多く、その意味では学習者と立場が同じであった。そのためボランティアには学習者と『ともに学ぶ』という姿勢があり、地域住民意識が醸成された。さらにボランティアは、学習者の母国の状況に対しても関心が高く、お互いの情報交換が活発に行われた。

なお、「取組の内容1.2.3」については文化庁本事業の期間外の開催となったため、東広島市主催で行った。

(3) 今後の改善点について

1.周知方法の改善: 参加したボランティアは、当団体が主催する何らかの日本語活動プログラムの経験者が多かった。今後新規ボランティアを増やすためには、市民全体に活動を周知する方法を工夫する必要がある。

2.ボランティア講習会の全体的枠組みの改善: 本プログラムのボランティア講習会は、本来3部構成になっていた。すなわち①総論(取組内容1、2、3)、②個別の課題、実技など(ボランティア講習会1～6)③まとめ(ボランティア講習会7)である。このうち①に関しては、事務的、時間的制約があり、文化庁プログラムとしては実施できなかった。本来、一つのプログラムの中で行うべきものであると考えるので、事務的、時間的制約の改善が望まれる。

3.ボランティア講習会のスケジュール改善: ボランティア講習会を類別すると①総論を扱う講習会(新規ボランティア開拓も含めて)②各論および実技(実践)中心の講習会の2種類となる。この二つを行う時期、頻度を再考し、学習者、ボランティア双方に、より有益なボランティア講習会スケジュールを構築したいと考える。

取組3

取組の名称

東広島ってどんな町？みんなに伝えるシンポジウム

取組の目標

1. 学習者が知り得た内容をシンポジウム参加者に日本語で伝える。
 2. 1により学習者は、日本語でのプレゼンの方法を知る。
 3. 東広島市民に外国人市民を身近に感じさせるとともに、外国人とのコミュニケーションの契機を作る。

取組の内容

期間中に2回シンポジウムを開催する。
 1回目は9月、第2回目は1月末に行うこととする。
 内容は次の通りとする。
 1. 取組1を通して知り得た内容について、学習者が日本語で発表する。
 2. 日本語ボランティアは外国人が発表する日本語について事前に助言、サポートする。
 3. 発表の後は、参加者と小グループになり、内容などについて質疑応答の時間をとる。
 また、それぞれのシンポジウムでの発表者には、10月に行われる当事業団のスピーチ大会、2月に行われるしょうばら国際交流協会のスピーチ大会への参加を促し、日本語で発表する機会を増やし、日本語学習への意欲を喚起する。

取組による体制整備

本事業にかかわった東広島市関係機関にシンポジウムについて知らせ、外国人住民がどんなことを理解し、どのような意見感想を持ったかを知らせることで、今後の東広島市関係機関の多文化共生を推進する施策立案に関するヒントを提供する。

☐

取組による日本語能力の向上

・学習者に日本語で発表する機会を提供し、学習意欲を喚起する。
 ・日本語での発表の方法について知る。
 ・初対面の日本語母語話者に対しても、臆することなく話すための機会を提供する。
 ・日本語教室に参加していない外国人に日本語学習の場があることを知らせる。
 ・これまで外国人市民との交流がなかった市民に、その糸口を提供する。

参加対象者

東広島市に在住、就労、学習している市民

参加者数
(内 外国人数)

64人
(35人)

広報及び募集方法

1. やさしい日本語でチラシを作成し、次の場所や機関に配布広報する。
 ①現在行われている日本語教室
 ②交際交流ボランティア登録者
 ②市役所、広島大学、など公的機関
 2. 当事業団、交流型教室「にほんごわいわい」のFacebookサイトに記載する。

開催時間数

総時間 10時間(空白地域 時間)

主な連携・協働先

東広島市企画課など、取組1、2での連携機関

開催場所

東広島市市民文化センター研修室

参加者の出身・国別内訳
(人数)

中国

ベトナム

ネパール

韓国

フィリピン

インドネシア

タイ

ブラジル

23

3

アメリカ(2)、オーストラリア(2)、グアテマラ(2)、台湾(2)、ロシア(1)、日本(29)

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年9月26日(日)9:30-12:30	3	東広島市民文化センター	2	第1回シンポジウム準備	発表者2名への作文、発表技術指導	大角千恵	
2	平成28年10月1日(土)10:00-12:00	2	東広島市民文化センター	40	第1回シンポジウム	活動内容説明、活動について発表、夏同内容を基にしたクイズの出題、参加者同士の交流	間瀬尹久	劉滢華
3	平成29年1月11日(水)9:30-12:30	3	東広島市民文化センター	2	第2回シンポジウム準備	発表者2名への作文、発表技術指導	大角千恵	
4	平成29年1月21日(土)10:00-12:00	2	東広島市民文化センター	24	第2回シンポジウム	活動内容説明、活動について発表、夏同内容を基にしたクイズの出題、参加者同士の交流	間瀬尹久	奥村玲子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回シンポジウム 平成28年10月1日】

テーマ:ここが面白い! 東広島

1. 活動内容をスライド、やさしい日本語で紹介
2. 学習者の代表2名(台湾、グアテマラ出身者)により、ごみ処理、消防について活動を通して知りえたことを発表。
3. 学習内容や学習者の国の事情などから出題したクイズ。参加者全員が参加して行う。正解数が多い人には商品を授与した。
4. 参加者同士の交流

初めに活動内容を紹介することにより、取組1、2に参加したことがない人にも活動内容を知らせることができた。

学習者の発表は活動内容で特に発表者が印象深かったことに焦点が当てられており、単に内容を知らせるだけではなく、日ごろ日本人に気が付かない発表者の視点からの発表であり、参加者には新鮮に感じられたのではないかと。発表者にとっては日本語を使う良い機会となり、発表の準備も含め自分自身の日本語を上達させる手段ともなったと思われる。

クイズでは、見学先などで得た知識を基にしたものが多く出題され、参加者が自分たちの地域を改めて知る良い機会となった。また、参加型の活動であったため、大いに盛り上がり参加者全員が楽しく活動することができた。

参加者は取組1および取組2の参加者だけでなく、日ごろは外国人と接する機会のない人々も少数ではあるが参加しており、外国人市民との交流の場としても機能した。



○取組事例②

【第2回シンポジウム 平成29年1月21日】

テーマ:みんなではなそう! ひがしひろしま

1. 活動内容をスライド、やさしい日本語で紹介
2. 学習者の代表2名(中国、ロシア出身者)により、酒造り、危機管理についての活動を通して知りえたことなどを発表。
3. 学習内容や学習者の国の事情などから出題したクイズ。参加者全員が参加して行う。正解数が多い人には商品を授与した
4. 参加者同士の交流

シンポジウムの構成は第一回と同様である。第1回の参加者へのアンケート調査から参加者同士の交流時間が少なかったという反省があったため、交流時間を長めにとった。その結果、参加者同士が楽しそうに談笑する風景が見られた。また、後日その場で顔見知りになった参加者が誘い合って日本語教室に参加するという光景も見られた。

発表者は第1回と同様、作文および発表の練習などを通して日本語の上達が見られた。大勢の人の前で話すことを経て、自分自身の日本語能力にもある程度の自信が持てるようになったのではないだろうか。

アンケートの結果を見ると、発表およびクイズがとてもよかったと回答している人が多く、第2回でもクイズの人气が高かった。また、このような会を毎年開いてほしいという意見も聞かれ、今回で終わることなく、継続的に開催するよう考えていきたい。



(2) 目標の達成状況・成果

検証方法:参加者へのアンケート調査から検証する。

目標1:達成できた。

全部で4名の参加者が発表した。それぞれ日本語の学習経験は半年から1年程度であったが、各自が持てるだけの日本語を駆使して活動を通して知り得た内容を自らの視点で切り取り、日本語で発表できた。参加者にもわかりやすく思いを伝えることができた。

目標2:達成できた。

発表準備において指導者より内容構成、スライドの見せ方などの指導を受け、日本人母語話者にもわかりやすい発音やスピードでの発表が行えた。また、自国についての説明などにおいては、写真や地図を使い、参加者にその国の素晴らしさが伝わった。参加者に行ったアンケートからも発表がよかったという高い評価を受けることができた。

目標3:概ね達成できた。

参加者同士が自由に話し、交流できる時間を設けたことで参加者が自分の母語に関係なく話すことができた。それまであまり話したことのなかった者同士が、言葉を交わすことで顔見知りになるという所期の目的は達成できた。但し、第1回は取組1、取組2どちらにも参加したことがない人もいたが、第2回にはそのような人が少なく、これまで全く外国の人と交流したことがなかったという人はいなかった。第2回に関しては、地域住民に外国人市民の存在をアピールし、お互いが顔の見える存在となることも目指したもののだったが、効果は薄かったと思われる。

成果

・参加者のシンポジウムに対する評価は高く(アンケートでは参加者全員が「よかった」と答えている)、外国人との交流が少ない市民の参加は少数だったが、市民同士の交流という点では機能したと考える。また、日本語があまりわからない参加者においても低い評価になっていない。「来年もしてほしい」という意見が学習者、日本語話者両方から出ており、この活動が参加者に満足を与えるものであったことが窺える。

・学習者の日本語力向上にも寄与した。アンケートから、発表者ではない外国人市民も「おもしろい日本語も上手になるし、日本の文化も分かりました」という感想も出ており、発表者に限らず参加者たちはなにがしか得るものがあるという会であった。

・来年も開催してほしいという声がアンケートからだけでなく、担当した講師からも上がっている。東広島市で年に一回開かれるスピーチ大会では参加者の日本語力はかなり高く、今回発表した人たちのレベルでは参加しづらいものとなっている。このような会を継続的に行っていければ、日本語学習を始めてから日が浅い学習者にも発表の場を与えることもできる。引き続き行っていくように考えたいと思う。

(3) 今後の改善点について

1. 開催場所の確保:当初周知には多言語およびやさしい日本語でのチラシを作成し、各関係機関や地域センターなど人が集まりやすい場に配布する予定であったが、会場の都合で、多くの人に呼びかけることが難しいと判断し、周知も限定的にした。結果的には2回のシンポジウムどちらも、部屋の制限人数いっぱい参加者が集まった。多くの人に周知するに当たっては、少なくとも70人規模の部屋の確保が必要であった。今後この活動を続けていくには、まず部屋の確保を行う必要がある。

2. 連携機関への参加周知:今回のシンポジウムでは、連携機関への働きかけは口頭だけで済ませたため、参加は市企画課だけにとどまった。文書などで正式に依頼し、発表を聞いてもらうことで、今回の活動を学習者がどのようにとらえたのかなどについて知らせる必要があった。

3. 国際交流に関心のある市民以外への周知:1にも関連するが、外国人市民との交流がほとんどない市民の参加が少なかった。今後開催する際には、多くの人に参加してもらえよう、多くの人が集まる場所にチラシを置いたり、SNSなどの機能を使って参加を呼び掛ける必要がある。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

1. 外国人市民が東広島市の特徴や状況を知ることを通して、東広島市の市民としての自覚を持つ。また、知り得たことを日本語で伝える。
2. 本事業に参加した外国人市民が東広島市について知り得たことを自身の知人友人にインターネットなどを通して知らせることにより、より多くの外国人に東広島市について知らせる。
3. 受け入れ市民は、外国人市民の活動を支援することにより、自身も東広島市について知識を深め、またそれを通して外国人とのコミュニケーションの方法について知る。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

目的・目標の達成状況

目標・目的1: 東広島市民としての自覚を持つまでには至らなかった。知り得たことを日本語で伝えることについてはある程度達成できた。

日本語母語話者と会話したり、東広島市の施設を見学することを通して、東広島についての知識は増えた。しかしながら、来日1年未満や、短期滞在の学習者には東広島市の市民としての自覚を持つというのは難しかったと思われる。聞き取り調査では、ボランティアと話をすることは楽しかったし、小学校はきれいで子どもたちが可愛かったという表面的な感想は多くの学習者から出ていたが、東広島市民としての言及はなかった。シンポジウムで発表するという活動では、自分自身の視点から参加者にわかりやすく伝えることができた。また、毎回活動の最後の振り返りでは、その日に得た新しい知識や感想などを日本語で参加者にわかりやすく発表することができた。

目標・目的2: これについては達成できたとは言えない。

当事業団では開催する交流型教室の参加者を対象にしたFacebookのグループを立ち上げている。そこへの書き込みは主にコーディネーターや講師、ボランティアなど日本語を母語にする人の物が主で、それに対して学習者がコメントなどを書き込むことはあっても、自らが主となって書き込むことはない。また、あったとしても日本語のレベルが比較的高い学習者に限られる。自分自身が知り得たことをSNSなどを通して友人に発信した人もいたが、多くの参加者がそうしたかどうかは検証できていない。

目標・目的3: 概ね達成できた。

ボランティア講習会の振り返りでは、「普段見られない東広島市のことが分かり、学習者と体験的に学習できた」「学習者の視点での感想などを聞くことで新しい発見があった」などの意見があった。また、最後のまとめの講習会では、「外国の方にはどう伝わっているか常に確認することが大切」「理解していただけるかを常に意識しながらの活動が必要」「自分の話し方や伝える情報量など、相手の立場になってわかりやすく伝える努力をしたい」などという意見が上がっていた。ほぼ1年にわたる講習会で、学習者とともに東広島について知る事ができ、またさまざまな活動を通して学習者の理解度を確認しながら、日本語をサポートすることの大切さが実感できたことがうかがえる。

成果

1. 学習者と日本語ボランティアがともに長期にわたって体験活動などを通して様々な学びがあったことで、仲間意識が生まれ、互いに隣人という意識を醸成することができたのではないかと考える。この意識を基に一步進んで「市民としての自覚」を持たせるためには、今後もさまざまな活動を積み重ねていくことが肝要であろう。
2. 学習者は自分が持てるだけの日本語を駆使し、毎回ボランティアとのコミュニケーションを行おうと努力した。特に毎回のように参加していた学習者は、日本語能力の向上が見られた。ある学習者は、日本語の上達には、先生に文法や語彙表現を教えてもらうことも大切だが、この取り組みのように普通の日本人が話す日本語を聞き、それに応える活動も大切だと語っていた。さらに、日本人の知り合いが増えるということもうれしいと話したことから、交流型活動の効果が確認できた。
3. この事業を通して、これまで関係が薄かった市危機管理課との連携ができ、担当者からも今後も連携していきたいとの依頼も受けた。防災活動には現在外国人の参加がなく、今後は外国人も含めた防災活動の必要性を市担当課と共有できた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

1. 教育委員会

この研修で教育委員会に講師を依頼しさらに学校見学のコーディネートも依頼した。それまでも外国人児童生徒の学校教育に関する事など、相談することがあったが、教育委員会の担当者だけでなく、学校現場における教師たちとも交流できた。また、見学については受け入れ小学校が好意的に対応してくれ、今後もこのような活動を続けたいとの意思表示もあった。今後の活動につなげることができるだろう。

2. 観光協会

酒蔵見学においては観光協会との連携ができた。ボランティアガイドと学習者の交流もあり、担当者やガイドと顔の見える関係づくりができた。これからも酒蔵見学は続けていく予定である。

3. 東広島市危機管理課

(2)目的・目標の達成状況・事業の成果にも書いたが、危機管理課と連携できたことは大きい。東広島市では毎年防災知識の啓発のための活動が行われているが、外国人は参加していない。この事業で危機管理課の担当者や外国人住民への防災知識の普及、防災訓練について共有の課題認識ができた。これを踏まえ、来年度は外国人も含めた地域住民を対象とした防災訓練を行う方向で引き続き連携していく予定である。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

1. 周知・広報について

- ・これまでも、外国人住民にどのように情報を届けるかは大きな課題であった。昨年度から交流型日本語教室ではFacebook内にグループを立ち上げ、参加者には情報がいきわたるよう工夫している。今回も活動の様子などについては写真付きでほかの教室の学習者にもわかるように情報を流した。学習者に確認すると多くの教室参加者が読んでいることが分かった。情報伝達に一定の成果があったと感じている。
- ・日本語を母語とする住民には地域センターなどの公共施設に配布したり、市広報に載せたりしたが、情報がいきなりにくい。ローカル新聞などへの記載や地域のFM局などを通しての周知を考えていきたい。

2. 事業成果の発信について

シンポジウムでは事業の内容や学習者の発表を行い、参加者には好評を得た。学習者、ボランティア、シンポジウム参加者からはこのような会を続けてほしいとの要望も上がった。来年度以降は年に複数回、日本語教室活動の一環として行っていきたいと考えている。また、本事業で行ったシンポジウムのように教室活動の報告会を行うことで、日本語学習や日本語ボランティアのすそ野を広げていきたいと考える。

(6) 改善点、今後の課題について

1. テーマの設定について

本事業ではあらかじめ毎回のテーマを設定していたが、テーマによっては参加者が少ないということもあった。今後は参加者にもある程度の自由度を持たせるような、大きなテーマ設定にしておくほうがよいようだ。

2. 活動内容

見学などの内容については、初めに参加者に希望を聞き、それに沿って活動を決めていくことも考えたい。行政が見せたいところだけではなく、学習者自らが決定して見学を計画するような活動を行えるように。またその際、通訳の配置などについても考慮が必要である。

3. 専門家の話を聞くことについて

専門的な知識を持つ人の話を聞くことは、学習者に地域や日本社会に豊富な知識を与えられることから必要なことであり、今後も続けていきたいが、学習者の母語が様々であるため、すべての人に通訳を付けることも困難である。また、専門家にやさしい日本語の使用を依頼することは時にむずかしい。そこで、会の進行方法などについて工夫が必要となる。その方法について考えていく必要がある。

4. 学習者の情報発信

学習者に教室活動で知ったことなどをSNSなどで発信できるように促す。特に日本語教室の参加者グループページへの書き込みについては活動の中で実際に書き込んでみるなどの活動を入れる。

5. ボランティアのすそ野を広げる

教室報告会などを行う際には、ローカル新聞など日ごろ外国人との交流のない人の目にも留まるような広報の方法を考える。

6. 教室開始時間

9:30に設定していたが、常時遅れてくる学習者がいた。時間が早くて間に合わないという意見が学習者から出たため、今後は時間を30分ずらして10:00に開催することを考えた。

(7) その他参考資料

① アンケート結果

- i 学習者への聞き取りのまとめ
- ii ボランティア講習会アンケート結果
- iii シンポジウム参加者へのアンケート結果

② 見学など体験活動の記録

③ シンポジウム関係資料